

事業名称	地域と世界をつなぐ～阿波の手工芸を核とした文化交流の提案～		
実行委員会	いんべの里地域活性化実行委員会		
中核館	一般財団法人 阿波和紙伝統産業会館		
	住所	〒779-3401 徳島県吉野川市山川町川東 141 番地	
	TEL	0883 (42) 6120	FAX 0883 (42) 6085
	ホームページ	http://www.awagami.or.jp/hall/about/index.html	
構成団体	吉野川市、吉野川市商工会、吉野川市国際交流協会、吉野川市文化協会		
事業開始時点の課題分析	<p>本事業の中核館たる阿波和紙伝統産業会館には、毎年 1000 人ほどの外国人が訪れている。特筆すべきは、日帰り・短時間滞在の観光客だけではなく、阿波手漉き和紙研修会(20 名ほどの参加者が 5～8 日間滞在し、和紙の製造工程の全てを学ぶ研修会:年に 3.4 回開催)やアーティストインレジデンス(毎年 10～11 月の約 50 日間、選抜されたアーティスト 4 名が当地に滞在し、制作、作品展覧会を行う)へ参加する中・長期滞在者が複数名いることである。こうした交流は約 40 年前から続いており、近年では交通アクセスや周辺観光拠点の整備などインバウンド事業が活発化していることも相まって、海外からの来訪者は目立って増加傾向にある。</p> <p>しかし一方で、和紙「以外」の魅力は何か?と問われた際、返事に窮する実情もあり、これこそが地域が抱える一番の課題のように思う。</p> <p>我々は伝統的工芸品を扱う中核館を擁している。地域に由来する工芸・美術の価値、歴史的背景、技術伝承について自らがよく学び、諸外国、日本の他地域に広めるヨコ展開はもちろんのこと、その文化を次世代の者へと引き継ぐタテ展開にも同等に注力していく必要性を感じている。</p>		
事業目的	<p>和紙「以外」の魅力は何か?という課題を、地域に由来する工芸・美術的観点から考察する。徳島県央地域の吉野川市に残る染め(藍染)や織り(古代織/太布織)の技術は和紙づくりとの親和性が高い。(いずれも草木や水といった天然材料を用い、作業の大半が機械によらず手作業である。)</p> <p>すでに確立されつつある、和紙作りを通じた国際交流、教育啓蒙活動に加え、藍染及び古代織を加えた 3 つの視点から、地域の魅力を倍増させることを目的とする。</p>		
事業概要	<p><b>【親和性の高い 3 つの工芸(和紙・藍染・古代織)をコラボレーションさせる 5 年計画】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・異分野交流によるインパクトではなく、近いものが交わることで専門性をより高める</li> <li>・専門性=難しいこと、を分解しわかりやすく伝えることを常に想定する</li> </ul> <p>(平成 30 年度「和紙×藍 阿波鳴門 1857」)</p> <p>江戸時代に作られた歌川広重の木版風景画:雪月花之内花「阿波鳴門之風景」を現代の徳島県で制作する。制作過程の中に和紙や藍染に関する学習の機会を設ける。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 美術素材としての和紙作りとその教育啓蒙活動 <ul style="list-style-type: none"> <li>い、高等学校で美術を専攻する者に対する和紙、伝統工芸教育</li> <li>ろ、外国人に対する和紙、伝統工芸紹介</li> </ul> </li> <li>(2) ヒロシゲブルーを再現するための藍作り <ul style="list-style-type: none"> <li>い、小・中学生に対する藍染科学教室</li> <li>ろ、地域住民に対する藍染歴史教室</li> </ul> </li> </ol>		

<p>実施項目 ・ 実施体系</p>	<p>(1) 地域文化の発信の核となる美術館・歴史博物館</p> <p><input type="checkbox"/>ア 美術館・歴史博物館の情報発信、相互連携</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>イ ユニークベニユールの促進</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>ウ 地域のグローバル化拠点としての美術館・歴史博物館</p> <p><input type="checkbox"/>エ 地域に存する文化財を活用した地域共働の創造活動や地域の魅力の発掘・発信</p> <p>(2) あらゆる者が参加できるプログラム及び学校教育や地域の文化施設等との連携によるアウトリーチ活動</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>ア 小・中・高等学校と連携した地域文化の担い手の育成</p> <p><input type="checkbox"/>イ 大学等と連携した国内外で活躍する文化人材育成プログラムの開発</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>ウ 社会人ほか多様な対象者のための学習講座の実施</p> <p><input type="checkbox"/>エ 障がい者の芸術活動支援・鑑賞活動支援等の事業</p> <p>(3) 新たな機能を創造する美術館・歴史博物館</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>ア 観光・まちづくり・国際交流・福祉・教育・産業等他分野との連携融合による活動</p> <p><input type="checkbox"/>イ 文化財の新たな保存管理・活用の手法の開発</p>
<p>施後の 成果・効果等</p>	<p>(1) 和紙と藍のコラボレーション企画により、地域の手工芸を多面的に広めることができた</p> <p>和紙や藍は地域に由来する産物であるゆえ、それらを生業としてきた者も多く、徳島においては、文化や歴史よりも経済性、換金性といった視点が圧倒していることに窮屈さを感じていた。現状課題にもあげたタテ（世代間）ヨコ（地域間、産品間）の繋がりを作ることを目的に、和紙と藍をテーマにした展覧会、講演会、ワークショップを開催した（詳細別紙5参照／展覧会参加者：約900名、講演等参加者：約200名）</p> <p>(2) 美術素材としての和紙作りとその教育啓蒙活動が達成できた</p> <p>中核館での紙漉き講義（アメリカ／プリンストン大学アート領域学生、徳島県立那賀高等学校、名西高校、など）を通じて、和紙の原料作成から、紙漉き、紙貼りに至るまでの技術をレクチャーし、和紙に対する理解を深めるきっかけを提供した。</p> <p>(3) 歌川広重の木版画「阿波鳴門の風景」の復刻に合わせ、藍の栽培から薬作りまでの過程、歴史などを学ぶ場を作った。地元の名所を版画で摺ることで一段の親近感をもたせ、結果、それらの講演、展示等では参加者と講師との間で活発な質疑応答がなされた。</p> <p>参加者は郷土の歴史や文化をもっと広範囲に、かつ深く知りたがっており、次年度以降に繋がる事業ができたと自負している。</p>

## 【事業実績】

### 1. 文化交流・発信のための各種行事の開催

#### (1) 美術素材としての和紙作りとその教育啓蒙活動

- ① ・高校生に対する和紙、伝統工芸教育 対象：県立那賀高 8 名、名西高生 14 名
- ② ・外国人に対する和紙、伝統工芸紹介 対象：プリンストン大ほか計 46 名
- ③ ・阿波和紙と阿波藍の工芸、美術的価値、歴史に関する講演 対象：一般参加者 39 名

#### (2) ヒロシゲブルーを再現するための藍作り

- ① ・小・中学生に対する藍染科学教室 対象：一般参加者 12 名
- ② ・地域住民に対する藍染歴史教室 対象：一般参加者 58 名
- ③ 上記(1)③と共通 対象：(1)③共通一般参加者 39 名

#### (3) 地域の産物たる和紙と藍を海外、国内他地域からの視点も交え考察する【指摘事項への対応】

- ① ・次世代の伝統産業に携わる者の視点（テキスタイル、染織） 対象：一般参加者 12 名
- ② ・世界中に広がる藍作物を研究する者の視点 対象：展示／一般参加者約 400 名  
講演／一般参加者 45 名
- ③ ・徳島において和紙と藍を使った制作をする者の視点 対象：展示／一般参加者約 500 名



和紙と布による藍染展



講演 2018.10/21



ワークショップ 2018.10/14



講演 2018.11/24